

【かけはし】

KAKEHASI

2022.08

Vol.

3

医療法人社団哺育会 浅草病院 訪問リハビリ広報誌



特集

言語聴覚士がお伝えします

口腔ケアで誤嚥性肺炎予防



トピックス

誤嚥性肺炎を防ぐための第一歩

口腔ケアのポイント



誤嚥性肺炎は予防できる病気です

口腔ケアで誤嚥性肺炎予防

誤嚥性肺炎って？

人の喉の奥の気管の入り口に喉頭蓋（こうとうがい）といわれる蓋（ふた）があり、食べ物を飲み込む時には反射的に閉じて気管に入らない仕組みになっています。

飲み込む力が弱くなると、口の中の細菌、食べかす、逆流した胃液などが誤って気管に

入りやすくなります。その結果、発症するのが誤嚥性肺炎です。

20代でも飲み込む力は加齢の影響を受けると言われ、特に著しく低下がみられる60代以降の方は誤嚥のリスクが高いと言われています。また、少量の唾液や胃液が気管に入っても自覚がなく繰り返し発症する場合があります。高齢者では、命に係わるケースも少なくない病気です。

誤嚥の存在を疑う症状



食事にむせる

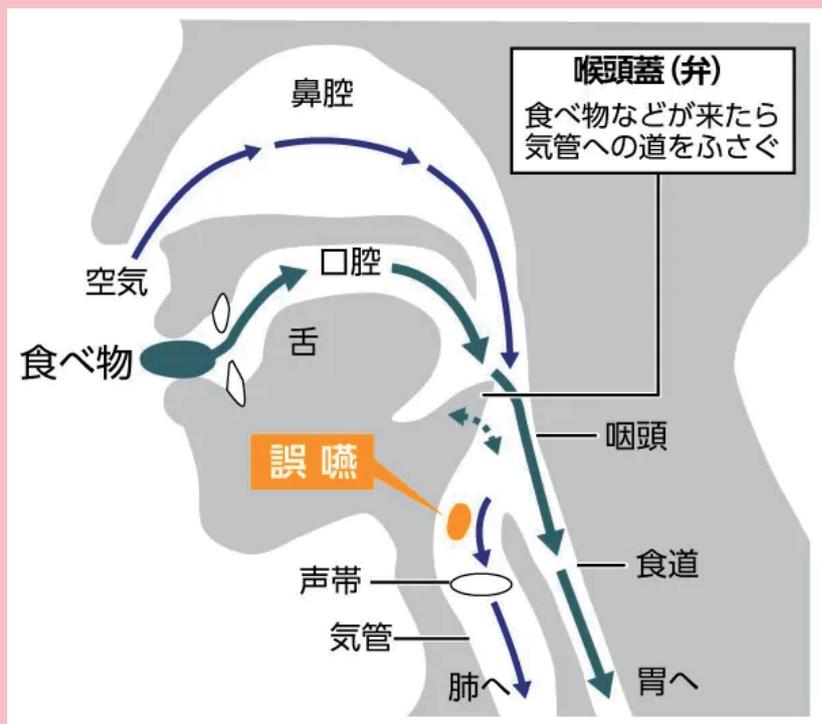


食後に声がかすれる・痰がからむ



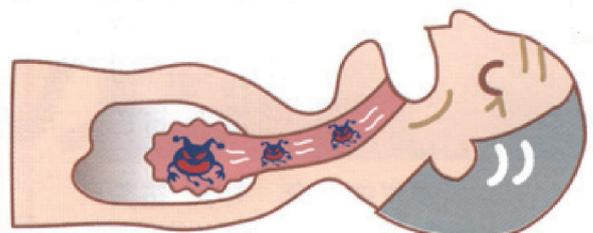
食事に時間がかかる

誤嚥性肺炎のメカニズム



寝たきりの人に注意が必要！

寝たきりの方は全身の筋力低下だけでなく、嚥下に必要な筋力の低下も起きていることがあります。注意が必要です。また、食べていなくても、誤嚥性肺炎のリスクはあるので注意が必要です。



●機能的な口腔ケアを行い
再発防止した例●



訪問リハ事例

「80歳代 男性 肺炎で入院後」

発熱があり救急外来を受診したところ誤嚥性肺炎と診断され入院となる。入院治療を行い少量の食事と座位は可能となり退院できた。退院後、再発を防ぐために言語聴覚士が嚥下評価・機能的口腔ケア・言語療法を訪問リハビリで実施。口腔機能の低下を防ぐために、会話で口・舌の機能低下を予防した結果、唾液分泌が促進され誤嚥性肺炎の再発は防ぐことができた。また、口の中が潤ったことで発音もよくなり家族との会話も楽しめるようになってきている。

<患者様より>

口腔ケアの後は口の中が潤っていることによって飲み込みやすくなって食事量が増えてうれしい。

<ケアマネ様より>

言語聴覚士の口腔周囲のマッサージや口唇・舌・頬の運動も口腔ケアで行ってもらえて再入院を防ぐことができました。



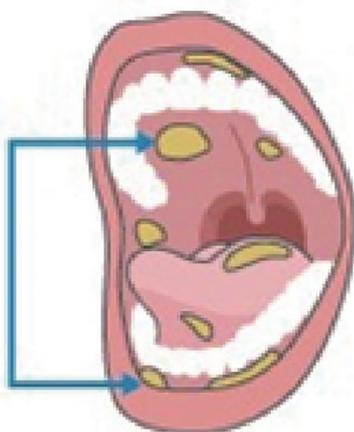
口腔ケアが予防の第一歩！



口腔ケアのポイント

「口腔ケア」で見落としがちな「痂皮（かひ）」のケア方法をお伝えします。「痂皮」とは、口腔内の

痂皮



の粘膜が上手くはがれ落ちないために硬くなり、乾燥によりこびりついてしまった古い粘膜の厚い層のことです。細菌が多く誤嚥性肺炎の原因の1つになっています。

口の中を保湿するために用意するもの



保湿剤



マウスウォッシュ



スポンジブラシ、
口腔ケア用ウェットティッシュのいずれか

- ①口の中は潤っていることが大切
- ②痂皮を保湿
- ③少しずつ痂皮を取り除く



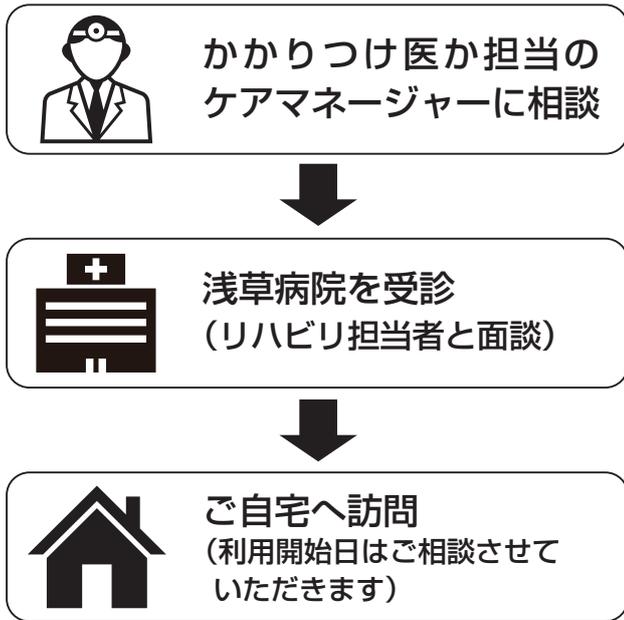
模型を使って
ご説明します



口腔ケアや嚥下のお悩みは
浅草病院 訪問リハビリ
言語聴覚士にご相談下さい



訪問リハビリ利用開始までの流れ



ご利用対象

■要支援（1・2）、要介護（1～5）認定されている方

※40～64歳までの方は、要介護状態になった原因が16種類の特定疾病による場合

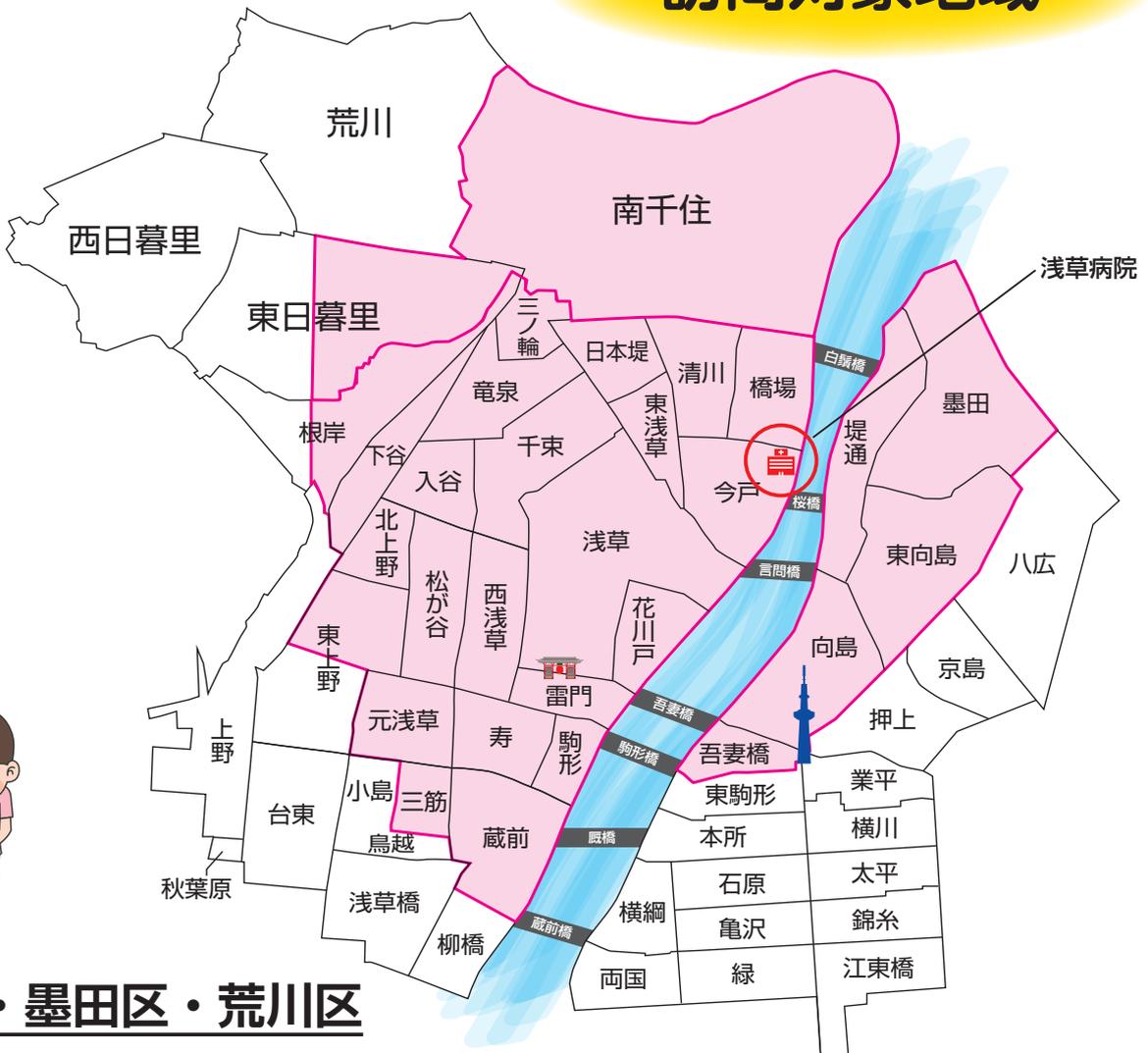
※65歳以上で要介護認定の方は、原則として介護保険適用

※年齢や特定疾病などにより、適用される保険は異なります

■主治医から「訪問リハビリテーションが必要」と認められた方

訪問対象地域

（圏外もご相談ください）
当院より3キロ圏内



台東区・墨田区・荒川区

医療法人社団哺育会 浅草病院 リハビリテーション科

〒111-0024 東京都台東区今戸2-26-15

専用ダイヤル 03-5824-1888

メールアドレス horeha@asakusa-hp.jp

営業日 <月～土> 8:30～17:30

休日 日曜日・年末年始（平日の祝日は営業）

QRからもお気軽にお問合せください →

